



未来の描き方

青山 綾子

なれるものになった私

幼少期には「なりたいもの」がいくつかあった。パン職人、和菓子職人、獣医、学校の先生、保母さん。この頃の『将来の夢』は、夢物語のようなもので、そのために自分が何をすべきかと考える必要がなかったし、どうすればなれるかなんて、大人も真剣に話してくれることはなかった。なりたかったものは、ならなくてはいけないものになる時がある。もしくは、なりたかったものではなく、なれるものになるという選択をするようになる。進学や就職活動の機会で考えるのは、「やりたい」をそっこのけにした、実現できるかどうかという現実的なものだった気がする。わたしは行ける学校へ行き、就職できる会社に入った。もちろん受験や就職活動はしたが、なれるものになったのだ。

絵馬に願い…珈琲・場所・結婚

何年前、当たり前前に毎月お給料がもらえることに自分の甘えや惰性を感じて、思い切って3年間勤めていた職場を辞めた。フリーター時々ニートという、なるとは想像もしていない自分になってしばらく経った頃のこと。『願いが叶う』と噂の観音様頼みで、絵馬にお願い事を書きに行ったことがある。その行為に、どんな期待やすがる思いがあったのかはわからない。当時はアルバイトをしていたカフェで珈琲に興味を持ち始めて(それまで‘珈琲なんて’飲んだこともなかった)、漠然と、いずれは人が集まれる場所を作りたいという思いを持っていた。とはいえ特別な願いがあったわけでもないが、友人に促されるまま観音様に会いに出かけた。願いをしっかりと叶えたい場合はこうする。‘できるだけ具体的に書く’‘場所や時、人の特徴など、5W1Hをなるべく細かく書く’‘近い将来の事を書く’‘願い事は三



つまで’これは友人がどこかで手に入れてきたロコミのようなもので、境内にはそんなことひとつも書かれていなかった。それでも、願いを思い浮かべてみればきりがなく、何年か先のなりたい自分を想像して必死に考えた。保育園や小学校の頃に『将来の夢』として思い浮かべていたものとは大きく違う、現実味を帯びた願いだ。且つ、就職活動の時のような、なれるものではなく、なりたい姿を。神様に叶えてもらうのだからと、知る限りの丁寧な言葉を並べて書いた。珈琲…場所…それから結婚のことも！が、いざ書いてみると、どれも自分で努力や行動をしなければ叶わないことばかりだと気付く。愕然としたのをよく覚えている。

場所への思い

思えば学生時代は人見知りで、二十歳前まではひとりで購入に出かけられず、人とのコミュニケーションは随分と億劫なものだった。一年がとてつもなく長い小学校、辛い練習と怖い人たちのいる部活、保育短大での実習では、保育士には絶対ならないと決めた。人生ってこんな風に辛いことが続くのかと、四半世紀も生きていないうちに半ば諦めモードになっていた。もちろん辛いことを乗り越えれば自信になるし、間違いなく自分の強みになっている。けれど当時は、周りの大人や関わってくれた人たちを見て、あまり楽しいオトナ生活が想像できなかつたし、

誰からも、これから楽しいことがあるとは教えられなかった。今思えばこんな思いが、場所を作りたいということにつながる。

一人旅での出会い

そんな中で、‘楽しい’を教えてくれたのは高校時代のトモダチだ。思いを共有できるのはとても嬉しいことで、自分を知ってくれている(知ろうとしてくれる)トモダチのいる安心感に、目の前が開ける感覚を覚えた。人に対して少しだけ抵抗がなくなったのは、この頃のトモダチに出逢えたからだろう。そのおかげか、就職をしてからはひとりで旅行に出かけられるようになった。行き先と日数だけを決め、中身はほとんど決めずに出かけた。出会い頭の面白さに味を占めて、行く先々でたくさんの人と知り合った。初めての石垣島への旅では、ある青年との出会いがある。長髪をお団子で結び、長い髭が生えている。バックパックを背負い、「タクシーシェアしようよ」と声をかけてきた、ザ旅人。初めての石垣島で空港を出たばかりの出来事だ。普通に群馬で生活をしている限り、なかなかそんな人とも会わないので、随分と衝撃を受けた。その青年とは沖縄料理屋でごはんを一緒に食べ、「またどこかで」と別れた。翌朝、フェリー乗り場でばったり会う。彼と一緒にいたそのまた旅人は、地元が隣町の人だった。旅の面白さ、醍醐味である‘出会い’を教えてもらう。余談になるが、わたしにはおじさん運があるようで、旅先ではよくおじさんに助けてもらう。夜の島を軽トラで一周案内してもらったり、ジェットスキーで沖をクルージングしたり、ソーメンチャンプルをお腹一杯食べさせてもらったり。一軒家に住まわせてもらったこともある。しかも食事付きだ。もちろん、お礼にと借りた家中の掃除をした(当時やっていた某テレビ番組みたいだなと思いつつ)。とは言え、ひとり旅にはこういうことは付きものなのだけど、自分にそんなことが起こるとは思ってもみなかった。

なりたい自分になるために

人見知りのひとり嫌いが、そもそもなんで旅に出たのか。よくひとり旅に行くことを自分探しと言うけれど、わたしの場合はこうだ。ひとりで旅に出ら

れる、かっこいい大人になりたい。まだまだ見たことのない、人や景色に出会える自分になりたい。わたしはなりたい自分になる為に旅をした。おそらくそういった心持ちは、人から人へ伝達するのだと思う。‘こうなりたい’‘これが楽しい’と、何かに思いが向かう時、人やきっかけが身の回りに溢れてくる。

珈琲に興味を持ち始めた頃、ちょうど旅とよく似た状況になった。‘もっと知りたい’‘これが楽しい’という思いは、人との出会いや、自分の原動力になっていった。ありがたいことに今、思いを共有できる人や、考えのきっかけをくれる人が周りにはたくさんいる。その、人やきっかけに気付けるかどうか、結局は自分次第なのだろう。



なりたかった自分に

先述した絵馬の願い事は、少しずつ叶う方向へ向いている。努力や行動が必要と思いきり愕然とはしたものの、昔に描いていた夢物語とは違って、自分次第でそこへ近づけることに気が付いた。わたしは明日も、珈琲のある場所で、誰かと出会うだろう。形はどうであれ、あの頃なりたかった自分になっているかもしれない。他人でも誰でもない自分が、自分のできることを一生懸命にやる。とてもシンプルなことだ。未来を描くなら、まず今を大切にしなければならぬと思う。少し大げさなのかもしれないけれど、先の人生諦めモードだった頃の自分に会えたら伝えてあげたい。自分次第で、人生は面白い方にくらでも進める。わたしは今、なりたい自分である為に、毎日珈琲を淹れている。